

対談

小野有五 × 金澤信治

「自然からのメッセンジャー」



「ホッキョクグマ」写真提供:札幌市円山動物園



二酸化炭素濃度で見る限り地球は病氣

千葉 今日地球温暖化と北海道の環境についてお話を伺ってまいります。まず、温暖化の原因を小野先生にお話しいただきたいと思っています。

小野 地球温暖化は、わたしたち人類が二酸化炭素(CO₂)を増やしてしまったことが原因です。大気中の二酸化炭素濃度は、最も多かった13万年前ころでも280〜300ppmでしたが、今は390ppmになっています。人間に例えると、普段の血圧が25.0あるようなもので、地球は病氣と言えます。

過去にもCO₂が増えて地球が暖かくなったため、温暖化するだろうと科学者は予測しているわけですが、人類が生まれてこのかた、こんなにCO₂の濃度が高いことは経験したことがなく、予測できないんですね。今年北海道も5月に30℃を超え、そのあと雪が降りました。突然寒くなったたり、大雨が降ったり、干ばつが起きたり、何が起るか分からない。これが一番怖いことなんです。

金澤 過去のこととは分析できても、将来のこととは分かりませんからね。

千葉 温暖化のもとになるCO₂は、わたしたちが石油や石炭を燃やすことで増えています。たのですね。

小野 一番はそうです。それから森林が減ったことも挙げられます。これは誤解されやすいのですが、森林が増えるとCO₂をいっぱい吸収するというのは誤りで、森林はCO₂を吸収した分、それと同じ量を吐き出すんですね。だから、森林があることによってCO₂が安定するというのが正しいのです。しかし、森林を壊して建物やアスファルトにしてしまうと、吸収もされなくなってしまうんです。

CO₂は暖房だけでなく、森を壊して道路やダムをつくるときにも出ます。人間が便利さを求めて、余計なものをつくる過程で増えています。たのことが問題だと思っています。

このままではホッキョクグマが絶滅する

千葉 動物園の大事なテーマに、絶滅危惧(きぐ)種を存続させる、保護するというのがありますね。

金澤 動物園には、ワシントン条約で保護されている動物や、国際自然保護連合のレッドリストで絶滅危惧種に指定されている動物がたくさんいます。自然界では減ってしまったけれど、飼育管理されている動物園にはいるということ、まさに「種の保存」が大切な役割になってきているんですね。たとえばホッキョクグマは、地球温暖化の象徴的な動物となっています。このような希少動物は繁殖が難しく、2000年以降、国内で自然繁殖に成功しているのは、03年と05年に赤ちゃんが生まれた円山動物園だけです。

北半球に住んでいると、北極にばかり目を向けがちですが、インドネシアでは森林の伐採が進み、「森の人」と呼ばれるオランウータンが住めない環境になってきています。動物園では、オランウータンの繁殖にも挑戦しています。ヒマラヤなどに住むエキヒョウも絶滅危惧種で、円山動物園は、このエキヒョウの繁殖にも成功しています。

地球温暖化やCO₂など、子どもたちが理解しにくいことも、動物を通して伝えれば理解してもらえます。これからは環境教育に力を入れていきたいと思っています。

小野 たしかに「CO₂が増えるとこの動物が生きていけないんだ」と伝えるとみんな共感できますね。そういう意味で、動物園の役割は大きいと思います。そして、地球には北の動物もいれば南の動物もいます。一番危ないのは熱帯と寒帯の動物といわれています。両方の動物を見て学べるのは動物園ならではだと思います。

千葉 北と南、地球規模で見えていくことが大切なんですね。



聞き手
AIR-G'パーソナリティ

千葉ひろみ

ちば ひろみ ●宮城テレビ放送を経て、AIR-G'入社。午後の人気番組「2時いろネットワーク」を長く担当し、2000年4月からは「Morning PAX」(月〜木 9:00-10:55)担当。日曜9:00からの「ECOの実」では、エコ活動を行っている人物や団体、家でできるエコライフを紹介している。



「オランウータン」写真提供:時代孝義